

JSAF 外洋会議議事録

日 時：2011年1月23日、10:00-15:00

場 所：岸記念体育館 505 会議室

出席者：植松副会長、児玉常務理事、鈴木外洋総務委員長、守本（近北）、吉田（近北）、宇都（南九州）、山本（東京湾・総務委員）、林（計測委員長）、菊池（いわき）、浪川（監事・湘南）、大坪（湘南・安全委員長）、羽柴（三浦・外洋レース委員長）、福田（東京湾）、川久保（三崎）、大村（東京湾）、山田（駿河湾）、平松（三浦）、外山（三浦）、妹尾（内海）、坂谷（東海）、猪上（内海）、中里（三崎）、豊崎（広報）、寺澤（事務局）、小屋（東関東）、才藤（三浦）、鈴木（國央、内海）

議事 1.

植松眞 JSAF 副会長挨拶

外洋の会員が減少し財政的にも厳しく諸施策が打てない。

今までの枠組みを見直しながら、外洋会員の増強を図りたい。

児玉常務挨拶・報告

来年度 JSAF 新理事について説明、会長は山崎氏から現副会長の河野氏に代わることになった。

外洋系に関しては選挙理事として鈴木（國央）氏、児玉氏、水域推薦理事として東北・北海道選出の木立（きだち）氏、関東の平井氏、駿河湾・東海の坂谷、近畿・内海の守本氏、九州・西内海の剝岩氏が決まった。また監事に浪川氏が再選された。

（会議終了後、会長推薦理事として外洋系から中澤信夫氏・月光オーナーが受諾いただくことが決まった）

現水域理事の豊氏、外山氏、吉田氏、金井氏は退任されることになった。各氏の在任中のご功績に感謝したい。また吉田氏は IRC 委員長、レース委員として引き続き活動いただくことになっており、よろしくお願ひしたい。

出席者自己紹介の後、鈴木保夫外洋総務委員長の進行で各議題に入る。

議事 2 「外洋会議体についての検討」

「外洋推進グループ会議開催予定」(案)をもとに検討

外洋推進グループ内の委員会及び加盟団体との連携を密にし、外洋セーリング活動を活性化させることを目的に 「外洋会議」と「委員長会議」設置する。

「外洋会議」とは

(ア) 外洋推進グループに係る議案を決定する会議

(イ) 理事会承認の必要な事項について協議し、議案を理事会に上程する。

(ウ) 主な審議事項：外洋推進グループの事業計画と予算。外洋加盟団体との連携、調整。各委員会の最終決定事項。

(エ) 会議出席者：外洋系理事、外洋専門委員長、加盟団体代表者、外洋総務委員とし、開催回数は年2回(1月・6月を予定)

鈴木総務委員長の説明に対し、参加者から「本会議は、各専門委員会等での可決事項を、最終的に判断されるものか、また場合によってはその専門委員会などでの可決事項が、覆されることもありうるのか？」との質問ほか本会議の意義・方針についての質問があった。質問に対して児玉常務理事、鈴木委員長より説明があり、本会は、専門的な委員会や加盟団体などでの決議を覆すというものではなく、外洋事業推進のための連携や各委員、加盟団体との連携を密にし、交流を図ることにより、柔軟性のある開けた組織を機能させ、外洋セーリング活動を活性化させることを目的であることを確認した。

「委員長会議」とは

(ア) 各外洋専門委員会の相互に関係する事項について審議する会議。

(イ) 外洋会議において審議の必要な事項については外洋会議に上程する。

(ウ) 主な審議事項：各委員会の事業計画、予算。委員会相互に関係する事項。

(エ) 会議出席者：外洋専門委員長、外洋総務委員。

会議の回数及び時期は各専門委員長に委ね必要に応じて開催することに決した。

議事3「23年度事業計画」、「外洋関連予算」

各加盟団体及び委員会からのレース予定及び行事予定が報告された。各団体とも参加艇減少に苦慮している。また人気レースの日程のバッティングが多く、調整の必要性が訴えられた。現時点でレース予定等については未定の事項も多いが、JSAF ホームページのカレンダーに担当各自での書込みが可能なので、決定次第各自カレンダーを埋めて行くことを確認した。

決算・予算

予算については、22年度外洋系委員会の補正予算(11月末)、23年度予算の各種資料をもとに2010年度見通し、2011年度予算案の説明があった。鈴木委員長からは23年予算はとりあえず仮置きした数字を申請している。今後の予定で変更がありそうな部分は申告してほしいとのメッセージがあった。JSAF 2月の理事会で予算が確定する、会員、登録艇募集活動ほか寄付金の受入れ等を積極的に行うことが当面の課題である。また、機関紙「J-Sailing」での広告活動の効果を関連企業にアピールし、外洋活動に必要な増収活動を積極的に行うことも必要であるとの意見が出た。

ハーケンジャパンの協賛でJSAFへの艇登録募集のチラシが出来ている。登録艇、会員増強の有効なツールであるので各地で有効に活用し、艇登録、会員募集をすることを確

認した。

猪上委員より、外洋ヨット乗員向けのバッチテストの創設の提案があった。ヨット界に入りたい人に窓を開ける、特に高齢者に向けてヨットに入る道筋を示してあげる必要がある。そのため、スクールと資格を与える形で実現する。全国にセーリングスクールがある、そうしたスクールの検定をし、統一テキストなり、一定水準のプログラムを持って資格付与を行うというもの。本件については総務委員会を中心に継続検討となった。

議事 4 理事会報告（児玉常務）

・秋田名誉会長ご逝去

・外洋系より、JSAF 定期表彰に 3 名を推薦した。

栄光賞としてチンタオ・メイヤーズカップ優勝（8 カ国 20 艇参加）の稲葉健太氏（ラッキーレディー艇長）

功労賞に大島レースを 60 年間継続開催した田中一美氏（葉山フリート運営者代表）、

同、マラソンとヨット航海によって世界一周を成し遂げた間寛平氏

を推薦し合意を得た。

・外洋系特別加盟団体として JSAF 加盟申請をした日本外洋学生連盟は審議の結果異議無く加盟を承認された。また日本 IRC オーナーズ協会は協議事項として上程され、特段の異議は出ず、次回理事会の審議を待つこととなった。

・外洋学生連盟は優秀なクルーの供給源になる。各外洋加盟団体を通じて JSAF メンバー登録を進めて行きたい。については入会にあたり各加盟団体の格別の配慮をお願いしたい。ディンギー系には学生会費が設定されているが外洋系は特段の基準は設けていない、外洋系学生は一般会員として扱うが、各加盟団体の判断で入会金・会費などへの配慮を願いたい。そのほかの支援策は今後の検討とする。

議事 5 JSAF 登録艇募集チラシ（鈴木総務委員長）

チラシが完成したので配布したい。

艇登録は加盟団体、特別加盟団体から Web を通じて登録できることになったので、実際に触っていただきたい。

加盟団体には数百枚単位で送れる。近隣マリーナに配布願いたい。

なるべく、イベント等で手渡しできるよう努力してほしい。

議事 6 「委員会 審議・協議事項、報告事項」

各委員会委員長より、審議事項、協議事項の報告を受けた。

・レース委員会（羽柴副委員長、JSAF 運営規定第 2 章改正案）

全日本クラスおよび外洋艇全日本選手権（ジャパンカップ）開催に関する規定を見直す。

運営規則現 2 章は、公示、帆走指示書等で記載すべき事項を含んでおり重複がある。

基本的には RRS に沿ってシンプルに改訂し、第 1 章との整合をとった。また運用上では主催団体の地域事情を配慮するとし、改定案資料をもとに説明があった。

上記関連事項として外洋内海より、開催予定の全日本ミドルボート選手権開催規定に関する件で問題提起があった。

同選手権は全日本クラスのレースと規定されており、参加者全員が JSAF 会員であることが求められている。一方、外洋内海で主催してきたレースでの乗員規定については全員が会員でなくとも過半数以上、2/3 以上の会員の乗艇を義務付けて実施運営してきた経緯がある。このたび同レースは外洋内海主催（関西 YC）で予定され、本件においても JSAF 会員 2/3 以上の規定で運用したいとの希望がある。

については、新しい規定の解釈として、同ケースをどのように扱うか検討した。

その結果、全日本レベルのレース大会開催条件を遵守すべきであるが、外洋艇活動の活性化、推進、会員増強を目的として開催し実行することが求められるとして、今回は柔軟な対応をとることを了承した。

具体的な処置の例として、全日本レベルのレースであるパールレースでは、乗員規定の特別措置としてオーナースキッパーのみの権限として、2 名までを限定し、ゲストクルーの乗艇を許可している。今回もこれに準じた対応を願うこととした。

その他規定の変更が予定される場合は、事象発生の都度、主催団体長、外洋総務委員会、レース委員会で検討し、対応することとした。

- ・安全委員会（大坪委員長、SR 改訂）SR 改訂について案内。詳細については、HP 等での要確認。

意見として EPARB やライフラフトの規制緩和を望む声が挙がった。

- ・ルール委員会（大村副委員長）RRS により外洋レースでのエンジン使用が可能になったが、その適用方法につき説明があった。詳細については、HP 等での要確認。

- ・IRC 委員会（吉田委員長、IRC 会議の報告）

IRC の取得状況、申請の推移の報告

事務工数が膨大になり、事務関連の予算処置が必要

2 月に IRC 鹿児島会議、講習会が開催される。

- ・アメリカズカップ委員会（植松副会長 VOLVO Ocean への参戦計画）

夢のプロジェクトとして存在。250 億円かかるアメリカズカップより費用負担が抑制できる VOLVO Ocean への参戦を検討してはどうかとの意見もあり、植松副会長を中心に検討中。

- ・ISAF 環境コード

国内外洋艇にとって大変厳しい規定であるが、今後対応を検討する。

以上をもって終了した。